

大阪府北部を震源とする地震に伴う大阪市内の救急活動実態

社会福祉法人敬友会 高齢者住宅研究所 志垣 智子
大阪市立大学 宮野 道雄

Earthquake-related Human Casualties at the Epicenter in the Northern Part of Osaka Prefecture Based on the Callout Records at the Osaka Municipal Fire Department

Tomoko SHIGAKI, Institute of Elderly Housing Sciences
Michio MIYANO, Osaka City University, Japan

Summary

This study aimed to clarify the human casualties of the earthquake that struck the city of Osaka at 7:58 on the morning of June 18, 2018, for which a maximum seismic intensity of lower-6 was recorded at the epicenter in the northern part of Osaka Prefecture, based on the callout records of the Osaka Municipal Fire Department. By identifying the casualties directly attributable to the earthquake based on human characteristics, injuries and illnesses, and other factors, this study is expected to prompt renewed acknowledgment of previously ignored risks associated with daily life.

According to the changes over time, both types of earthquake-related injuries, i.e. internal and external injuries, peaked between 8:00 and 9:00 or between 11:00 and 12:00, and subsided by 12:00. External injuries were more common in both older men and women, whereas internal injuries (joint disorders, cardiovascular and respiratory system disorders, general symptoms and signs, and cognitive, sensory, and emotional states and behaviors) accounted for a high proportion of the injuries in girls/women aged 10 – 29 years.

Concern therefore exists over the risks to those living in narrow spaces in urban areas during earthquakes in Japan, which is rapidly becoming a super-aged society, and over the delays in discovery and rescue attributable to the marked increase in people living alone and the attenuation of community ties

1. はじめに

(1) 地震に伴う人間の被害 (地震工学・医学)

明治初年に始まり 1995 年兵庫県南部地震に至る国内主要地震を対象とした人間被害 (死傷者) の多様性とその要因解明に向けて、地震 (工) 学・医中誌 Web による関係誌を対象とし地震に起因する人間被害の全体 (外科系・内科系疾患, さらに精神系疾患) に注目してきた。その結果、両者の最も著しい違いは、地震に起因する疾病の種類と発生時期・収束期に関する時間長さであった。具体的には地震 (工) 学関係誌は主に地震の「最中・直後」を対象とする一方で医中誌より抽出の Keywords 群は長期に亘る内科・精神系疾患群の発生とそれらが被災域住民の生活支障へ及ぼす影響等々、被害の多種・多様性に力点をおいていることが分かった^{1,2,3)}。

(2) 地震直後に知りたい情報としての「震度」

気象庁が全国の一般市民を対象に行った「地震・津波に関する意識調査」によると「地震が発生した直後、あなたはどのような情報を必要としますか」(複数回答)という設問に対して、「各地の震度」と回答した人が48%、「今後の余震の見通し」、「震源やマグニチュード」と答えた人がそれぞれ43%となっており、地震直後に知りたい情報として「震度」を挙げている⁴⁾。

著者らがこれまでに用いてきた人間属性・疾病等詳細な情報を記した救急活動記録を用いて地震発生前からその後の実態を震度に注目して明らかにすることは震度に対応して発生する現象・被害を明らかにし防災情報としての意味を再考することを指す。既往研究では地震に伴う死者発生 of 当初段階に関する事例資料を収集し、死者の発生要因を明らかにした⁵⁾。しかしながら本研究では死亡に至らない負傷者他を対象としその発生要因を把握することを主眼とする。

(3) 本研究の目的

本研究は2018年6月18日午前7時58分に発生した大阪府北部を震源とする地震で最大震度6弱を観測した大阪市内の被害実態を大阪市消防局救急活動記録⁶⁾より明らかにする。昼夜間人口比率が高い大阪市内を対象として地震に直接起因する病院前後の被害実態を人間属性・疾患等から明らかにすることでこれまで注意を向けてこなかった日常生活に潜む危険性を再認識し、幅広い人的被害軽減に向けての提案を行うことを目指す。なお、本研究では第一報として地震発生前から「最中・直後」、地震発生からその後3日間を対象とする。

2. 研究方法

(1) 研究の流れ

本研究は、2018年6月18日月曜日7時58分頃に発生した大阪北部を震源とする地震の前後日に注目し、大阪市内で発生した救急活動事案の実態を把握する。その後、大阪府北部を震源とする地震に起因する災害活動状況⁷⁾(火災3件、救助77件、救護154件、救急搬送人員48名の詳細を図1のように明らかにする。

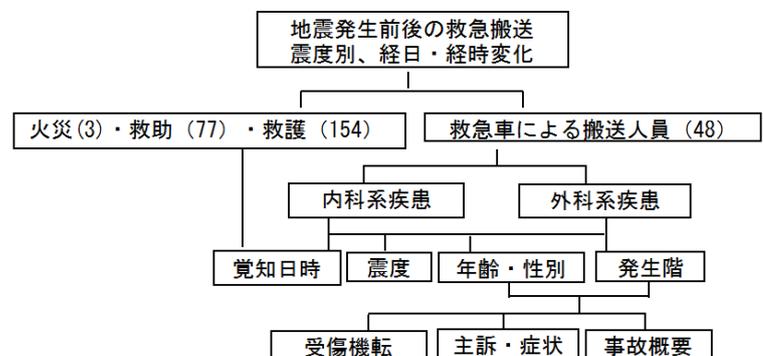


図1 研究の流れ

(2) 救急活動記録

救急活動記録は町丁目単位で集計されており、傷病者の属性、負傷等多岐にわたって病院前の実態を詳細に把握できることが特徴である。本研究では覚知日時、年齢、性別、発生階、発生場所区分、事故概要、受傷機転、傷病程度、傷病種別、診療科目、到着時所見(主訴又は主症状等を含む48項目)から成るデータを提供された。事故概要は現場の救急隊が事案に至った経緯についてテキスト媒体で最大80字が記載されている。地震に起因する救急搬送は隊員が現場での所見と搬送者本人へヒアリングした内容で判断し、詳細は事故概要のテキスト媒体に反映している。

(3) 倫理的配慮

大阪市消防局とはデータ提供に関して覚書を交わしており、またデータは個人特定不可の形に加工したものを提供されている。また本研究で行う分析は統計処理および匿名化の上で行い、個々の施設や人物を特定できないように配慮している。

3. 結果

(1) 地震の概要

平成 30 年 6 月 18 日 (月) 7 時 58 分頃、大阪府北部 (北緯 34.8 度, 東経 135.6 度), 震源の深さ 13km (暫定値), マグニチュード 6.1 (暫定値) である。大阪市内では、震度 6 弱を大阪市北区, 5 強を都島・淀川・東淀川・旭区, 5 弱を福島・此花・港・西淀川・生野区, 4 を上記以外の全 14 区 (中央・西・大正・天王寺・浪速・東成・城東・鶴見・阿倍野・住之江・住吉・東住吉・平野・西成) で観測した。

1) 建物被害⁸⁻¹¹⁾

大阪市内では住家被害は全壊 0 棟, 半壊 11 棟 (住家の被害認定のうち被害認定調査結果をふまえ, 被災証明書を交付した数), 一部損壊 1107 棟, 非住家被害 277 棟であった。老朽化した木造住宅, 塀, 等一部で大きな被害が生じた。屋根瓦, 偏心が大きい建物の外壁, ガラス, エキパンション・ジョイントなどの損傷が生じた。

2) 死傷者他 本地震による死者は大阪府内で計 6 名である⁸⁾ (2018 年 11 月 6 日時点^(注1))。大阪市内は 2 名で, そのうち 1 名は東淀川区上新庄の 80 歳男性, 小学生の登校を見守る活動に行く途中, 民家のブロック塀の下敷きとなった。頭部出血心肺停止, 膝が悪く目もよくなかった¹²⁾。また 1 名は東淀川区豊新在中の 52 歳男性 (関連死) である。発災 2 週間後に遺体で発見されており一人暮らしで多数の書籍が落下してきたことによる圧死とみられる¹³⁾。大阪市内の負傷者は重症 2 名, 軽症 66 名であった¹⁴⁾。

(2) 119 番通報受信状況

地震発生日の 18 日は全 1224 件受信した。平成 29 年中の 1 日平均 831 件と比較すると 393 件増である。地震発生後 1 時間の 8 時-9 時は 179 件 (平成 29 年平均 37 件) とピークに達し, 9 時-10 時 138 件 (同 45 件), 10 時-11 時 131 件 (同 46 件), 11 時-12 時 85 件 (同 42 件) となり, 18 時ごろまで増加傾向が続いた。

(3) 火災・救助・救護事案

火災は西淀川区大和田の半焼, 東淀川区豊新の部分焼, 淀川区塚本の事後覚知火災・ぼやを含めて計 3 件あった。火災で最も延焼が大きかった西淀川大和田に注目すると, 木造瓦葺モルタル塗り 2 階建て住宅居住者は 75 歳男性 1 名で自力避難し負傷はなかったものの延べ床面積 140 m²のうち 2 階 60 m²が損傷した (写真 1)。

救助はエレベーターの閉じ込め 59 件, 室内の閉じ込め 13 件等を含む計 77 件, 救護は外壁崩落危険 56 件, 瓦落下危険 56 件, 窓落下危険 1 件, 家屋又はブロック壁倒壊危険 2 件等を含む計 154 件, 救急は地震により転倒し負傷 13 件, 柵等が落下及び倒れてきた家具等による負傷 12 件, 倒れてきたブロック塀により負傷 1 件等を含む 44 件 (搬送人員 48 名) である。これらの災害種別を経日変化で示したものが図 2 である。全活動は地震当日の 6 月 18 日にピークを迎え, 救護件数を除いて収束傾向が見られる。

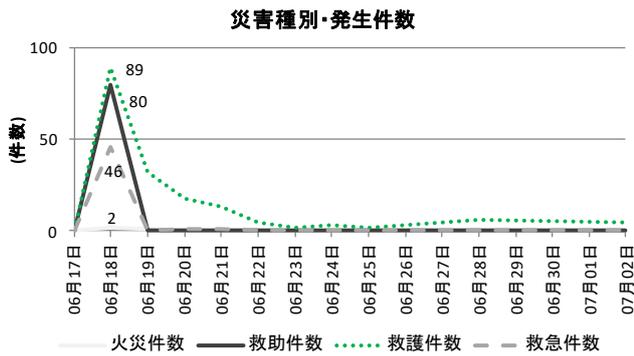


図2 災害活動状況 経日変化



写真1 西淀川区大和田の火災現場
2018年6月19日(火)13時頃著者撮影

(4) 救急活動の動向

1) 地震発生前後の震度別救急搬送事案(10万人当たり)の推移

地震発生前後の救急搬送事案の動向を把握するために地震発生前から発災後に大阪市内で発生した事案(人口10万人当たり)を震度別で日・時間単位による推移をそれぞれ比較した。すなわち、震度6弱を観測した大阪市北区, 5強を都島・淀川・東淀川・旭区, 5弱を福島・此花・港・西淀川・生野区, 4を上記以外の全14区を4グループにまとめて各震度群の搬送事案(人口10万人当たり^{注2)}を発生直後から時間・日の経過を比較する。ここで示す図3(2018年6月17日=0スタート), 図4(2018年6月18日6時=0スタート)はそれぞれ時間単位・日単位による推移である。

時間単位による事案数は震度5強・弱地域が地震発生1時間でピークを迎える一方で震度6弱・4地域は2時間後の9時台にピークを迎える。さらに第2のピークを震度6弱地域は14時, 震度5強地域は11時, 震度5弱地域は12時であり震度4地域は9時台のピークを境に収束傾向が見られる。一方, 日単位による変化をみると地震発生当日は震度6弱・5強地域の立ち上がりが大きく続いて震度5弱・4地域が続く。震度5弱・4地域は同程度の事案数であった。

6月21日23時までの累積事案数(人口10万人当たり)は震度6弱地域145件, 震度5強地域86件, 震度5弱地域90件, 震度4地域92件であった。すなわち, 地震直後は震度が大きいほど救急事案数も多くなる一方で, ピークは震度5強・弱が早く, 震度6・4地域は遅れて迎える。また地震発生後3日間

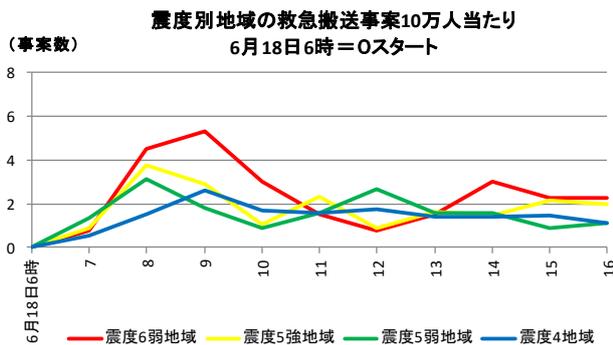


図3 時間単位による震度別救急事案数 各地域人口10万人当たり

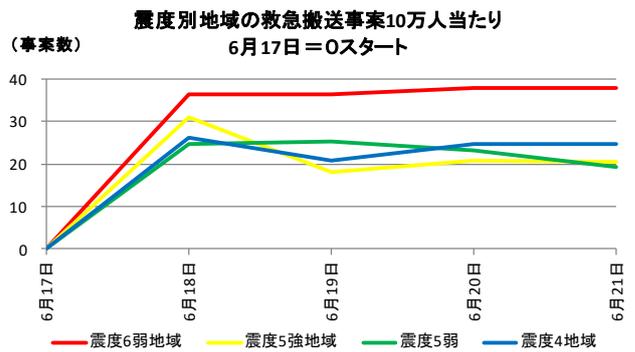


図4 日単位による震度別救急事案数 各地域人口10万人当たり

の救急事案数（累積）は降順に震度 6, 4, 5 弱, 5 強であった。

2) 地震に起因する救急搬送事案

大阪市消防局が地震に起因する事案と判断した搬送人員 48 名を対象に 16 区の震度別救急搬送事案数（人口 10 万人当たり）を表 1 に示す。震度 6 弱を観測した北区を除いて震度が大きいほど救急搬送事案が高いことが分かる。震度 4 以上を観測しているが、救急搬送事案が発生しなかった区は計 8 区（震度 5 強：都島・旭区、震度 5 弱：福島・港区、震度 4：天王寺・東成・住吉・東住吉区）あった。図 5 より内科系・外科系疾患（注 3）に大別し震度別・救急搬送事案数（人口 10 万人当たり）を比較すると、震度 5 強を観測した淀川・東淀川区で搬送件数がより多く、外科系疾患でも同様の傾向が見られる。

内科系・外科系疾患別の経時変化（実数）を示したものが図 6 である。負傷等による外科系疾患と目まい・呼吸苦などの内科系疾患は共に 8 時・11 時台をピークに 12 時には収束している。

性別・10 歳階級別・内科系・外科系疾患別の発生件数を図 7 に示す。男性 18 名、女性 30 名でピークは男女共に 80 代である。男女問わず高齢層ほど外科系疾患が多く占めるが、女性の 10 代、20 代は外科系・内科系疾患の詳細（傷病程度含）を表 2 に示す。外科系疾患は降順に「打撲：息子と娘を抱いて自宅の階段を降りていたが、地震の揺れを感じ座り込んだ。再び、階段を降りようとしたが足を踏み外し転倒、子供が負傷したもの。」「非開放性骨折：驚いて自宅マンション（6 階）から隣のビル屋上（4 階相当）に飛び降りたもの。」「挫創：二段筆筒の上部が落下。その際に頭部に筆筒が接触し負傷」と続く。空白は「地震の揺れでポットが倒れこみ、中に入っていたお湯が右膝

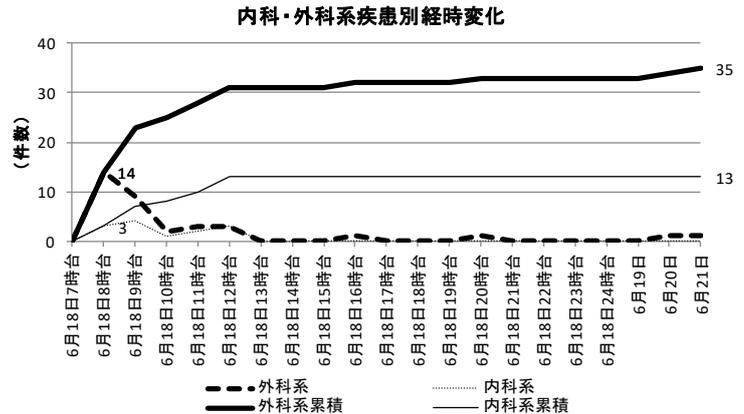


図 6 内科・外科系疾患別経時変化（実数）

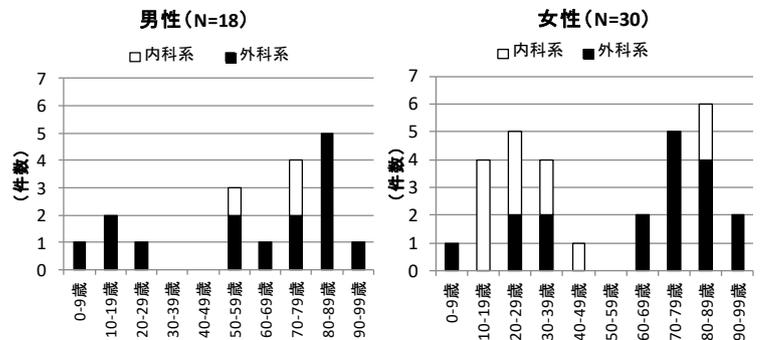


図 7 性別・10 歳階級別・内科系・外科系疾患別の発生件数（実数）

表 2 外科系・内科系疾患の詳細（実数）

傷病種別		全件数(中等症の件数)
外科系 33	打撲	14(1)
	非開放性骨折	7(4)
	挫創	5(1)
	頭蓋内損傷	2(1)
	その他の閉鎖性外傷	1
	擦過創	1
	切創	1
	捻挫	1
	(空白)	1
内科系 15	循環器系及び呼吸器系	6
	全身症状及び徴候	5
	関節障害	1
	腎不全	1(1)
	挿間性、発作性障害	1
認識、知覚、情緒状態及び行動	1	

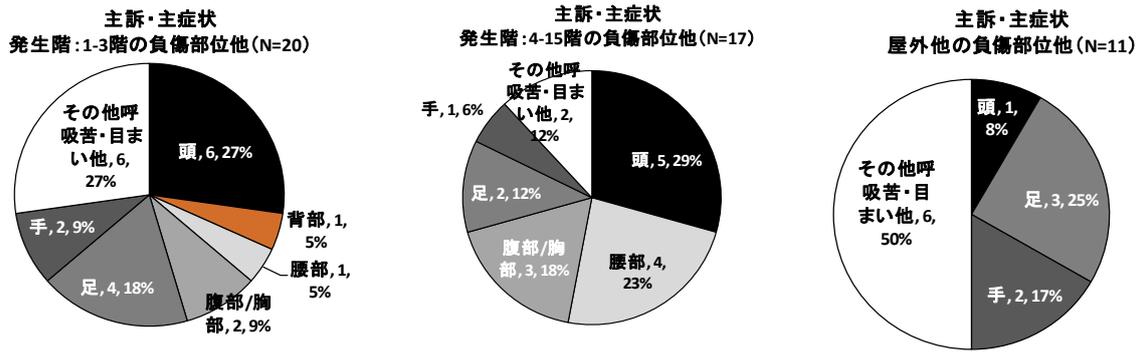


図8 発生階別主訴・症状（負傷・その他）と受傷機転（実数）
左図：発生階 1-3 階，中図：発生階 4-15 階，右図：屋外他

にかかったもの。」である。内科系疾患では「循環器系・呼吸器系：パニック症状が生じ、その後、浮動性眩暈が継続」、「全身症状および徴候：気分不良・頭痛・めまい」等がある。

発生階別主訴・症状（負傷・その他）と受傷機転については図8に示す。到着時所見の小項目にある主訴・主症状を発生階別（1-3階20件・4-15階17件）で比較すると、4-15階は腰部、腹部/胸部がより高い傾向が見られる一方1-3階では手・足の負傷と目まい・呼吸苦が高くなっている。頭部の負傷は屋外他を除き発生階にかかわらず約3割を占める。屋外他は「公衆の乗降りする運輸機関内、道路上等」を示し11件あった。半数は呼吸苦、目まい、気分不良、胸苦しさ、全身のしびれ等であった。事故概要では「地震発生直後から電車内に閉じ込められ、2時間後、気分不良と胸苦しさが生じた。」のように電車内での閉じ込めによる件数が6件あった。受傷機転の10項目を発生階別で比較したものが表1である。転倒、飛来物・落下物、受傷せずの占める割合が高い。1-3階、屋外他では「受傷せず」が多く占める。系疾患（関節障害、循環器系及び呼吸器系、全身症状及び徴候、認識・知覚・情緒状態及び行動）の占める割合が高い。

4階-15階の「その他」1件は、軽症・打撲で事故概要は「本日8時頃、地震の揺れで棚が倒れ、頭部を負傷。その際、椅子から転落し腰部も負傷したもの。」であった。

現場所見の項目には歩行状態の可・不可がある。地震発生直後からその後の時間単位（半時間毎）の推移を示したものが図9である。歩行可・不可は地震発生から半時間のうちにピークがあり、歩行可はその後収束するが歩行不可は9時～9時30分、11時～11時30分の2回ピークがある。75%の36件が歩行不可、25%の12件が歩行可能であった。

歩行不可36件の傷病程度は死亡1件、中等症8件、軽症27件である。ADLは32件が機能良好、中等度障害4件である。年齢層は12歳から94歳で住宅内20件、住宅外15件、高齢福祉施設等1件であった。歩行可能12件は全

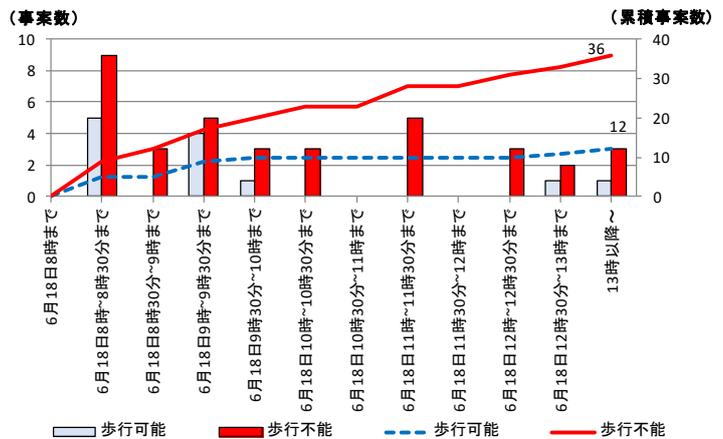


図9 現場所見による歩行状態別の時間推移

て軽症, ADL は 12 件全て機能良好である。年齢層は 2 歳から 82 歳と幅広く発生場所別では住宅内 8 件, 住宅外 4 件であった。歩行可能の救急事案数は収束傾向が見られるが, 歩行不可の救急事案数は漸増傾向にある。

歩行状態別の既往症の有無についてみると, 歩行可能 12 名のうち 75% (9 名) は既往症無, 循環器系・消化器系・その他がそれぞれ 1 名である。歩行不能 36 名のうち 31% (11 名) は既往症無, 悪性新生物・循環器系がそれぞれ 4 名, 消化系・神経系がそれぞれ 3 名, 筋・骨格系・精神系・その他がそれぞれ 2 名と続く (図 10)。

(5) 大阪市消防局へのヒアリング

2018 年 12 月 7 日金曜日に大阪市消防局救急課に地震発生当時の状況をヒアリングした (参加者: 片木副課長, 丸家氏, 志垣)。救急事案は意外にも少ない傾向にあったがエレベーターや室内での閉じ込めによる救助が多い傾向が見られた。ヒアリングの内容を以下にまとめた。

- ・地震発生後の救急事案は平常時と比較してあまり変わらなかったように感じた。土日, 月曜日, 祝日 (病院が休み) の朝 8-9 時は平時でも搬送事案が多い時間帯である。地震が昼間に発生していたら地震による事案が顕著に表出していたかもしれない。

- ・地震に伴う救急事案における現場所見の歩行状態 (歩行不能・可能) について歩行不可の事案数が漸増しているが平時の実態と変わらない印象がある。

- ・救急事案数が北区く淀川・東淀川区なのは, 北区では堅牢な建物が相対的に多い一方で, 淀川・東淀川区では木造密集地域も含まれており建物が脆弱だったのではないか。

- ・閉じ込めによる気分障害は平時でも頻繁に発生している。電車内での気分不良による搬送事案は多い傾向にある。地震による気分障害はもう少し発生しても良かったというのが実感である。意外に少なかったのが印象としてある。

- ・指揮者 2 名, 情報収集 1 名, 救急車 3 人, ポンプ車 4 人, 救助 (レスキュー) 隊 4 人体制で現場へ出向する。救急車・救助隊が現場に早く到着するケースが多く (エレベーター管理会社は現場まで 30 分程度要する), 各建物のマスターキーを消防局が持っているため消防局が先に対応する場合もある。

- ・地震時もエレベーターの閉じ込めが多かったが, 北区・中央区では平時から閉じ込めによる事案が多く発生している。その要因として古いビルが多くエレベーター管理会社の点検不足が見られる。点検は義務化されているが停まることが多い。

- ・地震当日, 病院へ電車で行こうと思ったら電車が停まっていて, タクシーを利用しようにも多くが出払っていて捕まらなかったため救急車をタクシー代りに呼んだ, という 1 例は除外した。

4. 考察

2018 年 6 月 18 日月曜日 7 時 58 分頃に発生した大阪北部を震源とする地震の前後日に注目し, 大阪市内で発生した救急活動事案の実態を把握した (救急事案の詳細を資料として添付)。

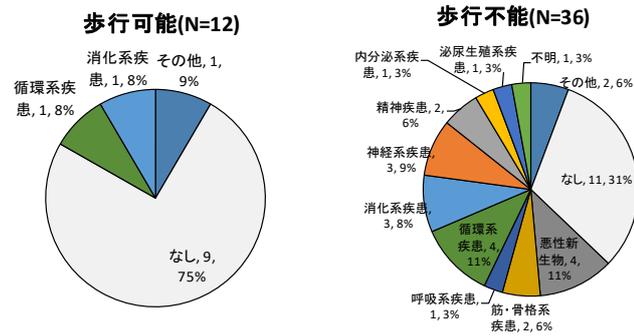


図 10 歩行状態別既往症の有無

地震発生最中・直後は家具転倒や揺れによる自己転倒に伴う外傷のみならず閉じ込めによる気分障害等を含む内科系疾患も含まれていた。また震度4でも被害は発生しており救急事案累積数では震度6弱の次に救急事案数が多かった。今後は地震発生直後からそれ以降の長期の動向を検証する必要がある。

母親が幼子2人(4歳、2歳)を連れて避難させる際に負傷していることから母親と子どもと一緒に避難する際、負傷する危険性が高まるのが地震災害でも見られた。揺れの最中にトイレ内にいたことで狭小空間内のさらなる揺れを感じて気分障害が発生している。これまで安全と言われていた住まいの各空間の再検討、住まい方、暮らし方の再考が必要と言える。

なお、本研究では第一報として地震発生前から発災直後を対象とするため、被害実態を限定的に分析したにすぎない。発災直後からそれ以降の長期の視点での分析は次回にしたい。

謝辞

本研究は2018年度地域安全学会秋季梗概集「大阪市消防局救急活動記録に基づく大阪府北部を震源とする地震被害の実態」に加筆したものである。地震発生当時のデータ、ご意見等は大阪市消防局救急課よりいただいた。なお本研究は平成30年度JR西日本あんしん社会財団研究助成「在宅高齢者の平時QOL向上・災害時劣化抑制に資する多職種救急情報共有システムの構築(課題番号:18R029,平成30年度)・(研究代表者:志垣智子)」を受けて遂行したものである。記して感謝の意を表します。

注

1. 大阪北部を震源とする地震に伴う死者について総務省消防庁の災害情報・各社新聞より抜粋して記す。
本地震による死者は計6人(2018年11月6日時点)である。大阪市2人以外の詳細について記載すると、高槻市2人:9歳女性は学校のプールのブロック塀が約40メートルの下敷き心肺停止15)。66歳男性は18日朝の地震発生以降連絡が取れず敷地内の別棟の民家に住む妹(60)が19日午前11時ごろ自室で衣類や本、CDなどに埋もれた状態で倒れているのを発見された16)。
茨木市1人:85歳男性は就寝中に倒れてきた本棚(木製幅約1m,高さ約1.8m)の下敷きになり死亡15)妻と二人暮らし(別室で就寝中)共同住宅6階,同階居住者に助けを求めらう。箕面市1人:90代女性は在宅医療を受けており,地震発生直後から体調が悪化し亡くなった。主治医が家で死亡確認。市は7月26日付で関連死と認めた17)。
2. 震度6弱が大阪市北区,震度5強が都島・淀川・東淀川・旭区,震度5弱は福島・此花・港・西淀川・生野区,震度4は上記以外の全14区ある。震度別・各区で発生した救急事案,人口を合計しそれぞれ人口10万人当たりで算出した。
3. 本研究では外科系疾患は救急活動記録内の診療科目で「外科,整形外科,脳神経外科」とし,内科系疾患はそれ以外の全てとみなしている。

参考文献

1. 志垣智子,太田裕,宮野道雄:地震に起因する人間被害の把握と減災戦略(短報),東濃地震科学研究所報告Seq.No.39,地域地震防災基準に関する基本問題研究委員会報告書,pp.85-91,2018
2. 太田裕:地震に起因する人間被害の文献学的研究-第1報医学文献DBによる論文の検索と傾向分析-,東濃地震科学研究所報告,Seq.No.22,pp271-393,2008.
3. 杉本 侃:平成7年度厚生科学研究費補助金健康政策調査研究事業,阪神・淡路大震災に係る初期救急医療実態調査班研究報告書,1996
4. 気象庁:震度を知る-基礎知識とその活用-,1996年9月
5. 宮野道雄,生田英輔,志垣智子,太田裕:地震に伴う死者発生の当初段階に関する事例資料の収集と分析に関する調査,東濃地震科学研究所報告,Seq.No.30,pp.41-49,2012

6. 大阪市消防局：地震に起因する救急活動記録
7. 大阪市消防局：大阪府北部を震源とする地震による活動結果（内部資料），2018 年 11 月
8. 総務省消防庁：災害情報，<http://www.fdma.go.jp/bn/2018/detail/1050.html>，（11 月 6 日時点，2019 年 1 月 8 日閲覧）
9. 大阪府 H P：http://www.pref.osaka.lg.jp/shobobosai/osaka_jishin/higai.html，2019 年 1 月 8 日閲覧
10. 日本建築学会近畿支部：大阪北部地震被害調査速報会資料，2018 年 7 月
11. 日本建築学会近畿支部同支部大阪北部地震災害対応特別委員会：シンポジウム市民公開講座「地震被害低減に向けた役割と責任を考える ブロック塀倒壊による悲劇を繰り返さないために」，pp.7-8，2018 年 11 月
12. 朝日新聞「80 歳見守り向かう途中で」2018 年 6 月 19 日付朝刊，14（35）
13. 大阪市：報道発表資料 地震に伴う大阪市の被害状況について（11 月 2 日 14 時現在）<http://www.city.osaka.lg.jp/hodoshiryo/kikikanrishitsu/0000451648.html>（閲覧日 2019 年 2 月 6 日）
14. 大阪市：大阪府北部を震源とする地震による被害及び対応状況，<http://www.city.osaka.lg.jp/kikikanrishitsu/page/0000439030.html>（閲覧日 2019 年 1 月 25 日）
15. 毎日新聞「大阪直下 M 6.1 震度 6 弱死者 4 名」2018 年 6 月 19 日付朝刊，14（1）
16. 朝日新聞「大阪北部地震、死者 5 人に 高槻の住宅で 6 6 歳男性死亡」2018 年 6 月 19 日付，<https://www.asahi.com/articles/ASL6M5Q7SL6MPPTB00M.html>（閲覧日 2018 年 11 月 13 日）
17. 産経新聞「大阪北部地震の死者 5 人に 箕面市で新たな関連死」2018 年 7 月 27 日付，<https://www.sankei.com/west/news/180727/wst1807270061-n1.html>（閲覧日 2018 年 11 月 13 日）

資料 続く

No.	発生場所・区	震度	発知日時 年 月 日 時	年齢	性別	発生場所区分	発生	事故概要	受傷機軸	傷病程度	傷病種別	診療科目	主訴又は主症 状	顔色	表情	原因器 物2	G C S・V	呼吸状態	その他の 所見	既往歴	ADL	歩行状 態
1	北区	6弱	8:03	81	男	居室(住宅)	5	本日7時58分に起きた地震により、二段階段の上 部が落下。その際に頭部に箆筭が接触し負傷した もの。	飛来物・ 落下物	軽症	挫創	外科	頭部の痛み	普通	普通	その他	良好	異常を認 めず	頭部痛 (-)	循環系 疾患	機能良 好	歩行可 能
2	北区	6弱	8:16	16	女	公衆の乗降す る運輸機関内		本日8時ごろ、電車に乗り通学途中に地震が発生 し、不安感から息苦しくなったもの。	受傷せず	軽症	循環器 系及び 認識、 知覚、	内科	両手足・顔面 の痺れ	普通	不安	受傷せ ず	良好	浅い		呼吸系 疾患	機能良 好	歩行不 能
3	北区	6弱	11:02	37	女	その他 (公衆出入場)	1	地震発生直後、めまい及びふらつきが生じ、しばら く棒子を見るも症状が改善しない。	受傷せず	軽症	認識、 知覚、	内科	めまい・ふら つき	普通	普通	受傷せ ず	良好	異常を認 めず		筋・骨 格系疾 患	機能良 好	歩行不 能
4	北区	6弱	16:38	28	男	廊下・通路 (住宅)	3	知人宅の玄関のドアを開けた際に、地震により倒れ かけていたと思われる木製の板のような物が倒れ て、足に当たったもの。	その他の 外傷	軽症	打撲	整形外科	右足背部の痛 み	普通	普通	その他	良好	異常を認 めず		その他	機能良 好	歩行可 能
5	淀川区	5強	8:04	52	男	駅構内	2	先程、店舗内で本棚のガラス部分で左手を負傷した もの。	刃物・鋭 利物	軽症	切創	外科	左手示指、中 指、環指切創	普通	苦悶	ガラス 片	良好	異常を認 めず		なし	機能良 好	歩行可 能
6	淀川区	5強	8:04	28	女	事務所	5	地震発生場所直後、倒れてきた棚と机の間で、身体 を挟まれ負傷した。	挟まれ 外傷	軽症	打撲	整形外科	胸部の痛み	普通	普通	その他	良好	異常を認 めず		なし	機能良 好	歩行可 能
7	東淀川 区	5強	8:05	80	男	一般道路(そ の他)		発生場所付近を歩行中、地震により倒壊したプロッ ク棚がぶつかり、負傷したもの。	衝突	死亡	非開放 性骨折	脳神経 外科	前額部挫滅 創、下顎動 脈創、両肘・左 下腿部の擦過 傷	普通	無表 情	その他 の施設 等	発語せ ず		不明	機能良 好	歩行不 能	
8	東淀川 区	5強	8:05	79	男	その他の道路		地震の揺れにより崩れてきたプロック棚が右下肢に 接触し負傷したもの。	飛来物・ 落下物	中等症	挫創	整形外科	右足背部の痛 み	普通	普通	その他 の施設 等	良好	異常を認 めず		循環系 疾患	機能良 好	歩行不 能
9	東淀川 区	5強	8:12	69	男	台所(住宅)	1	地震の揺れで落ちた皿が右足背部を直撃して負傷し たもの。	飛来物・ 落下物	軽症	挫創	外科	右足背部挫創	普通	普通	食器	良好	異常を認 めず		なし	機能良 好	歩行可 能
10	東淀川 区	5強	8:18	91	男	居室(住宅)	11	地震によりタンクスの上部が外れ落下、頭部及び右手 背部に当たり受傷したもの。	飛来物・ 落下物	軽症	挫創	脳神経 外科	受傷部の痛み	普通	普通	その他	良好	異常を認 めず		なし	機能良 好	歩行不 能
11	東淀川 区	5強	8:31	87	女	居室(住宅)	13	発生場所内において、地震により倒れてきたタンク スと接触した際、頭頂部を負傷した。	その他の 外傷	軽症	頭蓋内 損傷	脳神経 外科	頭頂部の痛み (2cm程度)	普通	普通	その他	良好	異常を認 めず		悪性新 生物	機能良 好	歩行不 能
12	淀川区	5強	8:45	68	女	居室(住宅)	2	居室内で子供を抱いた状態で、振動により後ろに転 倒し負傷したもの。	転倒	中等症	非開放 性骨折	整形外科	背部の痛み	普通	普通	その他	良好	異常を認 めず		なし	機能良 好	歩行不 能
13	淀川区	5強	9:22	26	女	事務所	1	その後呼吸器及び手足の痺れが伴ったもの。	受傷せず	軽症	全身性 状態及び 呼吸器	内科	呼吸器、手足 の痺れ	普通	不安	受傷せ ず	良好	浅い		なし	機能良 好	歩行可 能
14	淀川区	5強	9:22	12	女	事務所	1	本日8時40分頃、電車乗車中に呼吸器が生じ、症 状が改善しないもの。	受傷せず	軽症	全身性 状態及び 呼吸器	内科	呼吸器	普通	不安	受傷せ ず	良好	浅い		なし	機能良 好	歩行不 能
15	東淀川 区	5強	9:29	17	女	公衆の乗降す る運輸機関内		本日7時58分に起きた地震により、乗車していた 電車が停車。数十分間電車内に閉じ込められている 間に気分不良が生じ、過呼吸を伴ったもの。	受傷せず	軽症	循環器 系及び 呼吸器	内科	気分不良	普通	普通	受傷せ ず	良好	異常を認 めず	2日前か ら風邪気 味であつ	なし	機能良 好	歩行不 能
16	淀川区	5強	9:51	89	女	居室(住宅)	1	地震の揺れにより、仏壇の上に置いていた花瓶が落 下し、頭部に当たって負傷した。	飛来物・ 落下物	軽症	打撲	脳神経 外科	右側頭部の痛 み、腫れ	普通	普通	その他	良好	異常を認 めず		泌尿系 殖系疾 患	機能良 好	歩行不 能
17	東淀川 区	5強	10:29	75	女	居室(住宅)	4	居室内を移動中、地震の揺れにより転倒し負傷した もの。	転倒	軽症	打撲	整形外科	右足背部の痛 み	普通	普通	その他	良好	異常を認 めず		消化系 疾患	中等度 障害	歩行不 能

資料 続く

No	発生場所・区	震度	発知日時	年齢	性別	発生場所区分	発生	事故概要	受傷機転	傷病程度	傷病種別	診療科目	主訴又は主症状	顔色	表情	原因器物2	GC S・V	呼吸状態	その他の所見	既往歴	ADL	歩行状態
18	淀川区	5強	11:22	78	女	居室(住宅)	14	本日7時58分、自宅内で立てっいた時に地震が起きて転倒。腰部に痛みが生じるも横になり様子を見ていたが、痛みが治まらず動けずいたため救急を請じたもの。	転倒	中等症	非開放性骨折	整形外科	腰部痛	普通	普通	受傷せず	良好	異常を認めず	頭部打撲(-)	筋・骨格系疾患	機能良好	歩行不能
19	淀川区	5強	11:24	32	女	公衆の乗降する運輸機関内		地震発生直後から電車内に閉じ込められ、2時間後、気分不良と胸苦しさが生じた。	受傷せず	軽症	循環器系及び	内科	気分不良、胸苦しさ	普通	うつろ	受傷せず	良好	異常を認めず		その他	機能良好	歩行不能
20	淀川区	5強	12:19	18	男	公衆の乗降する運輸機関内		本日7時58分頃、電車乗車中に地震が発生し、電車が停車した際に左足を捻って受傷したものの。	その他の外傷	軽症	捻挫	整形外科	左足首の痛み	普通	普通	その他の交通	良好	異常を認めず		なし	機能良好	歩行不能
21	淀川区	5強	12:19	74	男	公衆の乗降する運輸機関内		地震により電車内に閉じ込められ、車外へ移動の際、ふらつき・めまい・倦怠感が生じたもの。	受傷せず	軽症	全身症状及び	内科	ふらつき、めまい、倦怠感	やや蒼白	不安	受傷せず	良好	異常を認めず		悪性新生物	機能良好	歩行不能
22	東淀川区	5強	6/21 8:57	82	女	居室(住宅)	11	3日前の地震発生時、ベッドから転落した際に左側胸部を負傷したものの。	転倒	軽症	打撲	整形外科	左側胸部の痛み	普通	苦悶	その他	良好	異常を認めず		なし	機能良好	歩行不能
23	此花区	5弱	8:00	50	男	その他(公衆出入場)	1	エレベーターホールを歩行中に地震が起きパランスを崩して、後ろ向きに倒れた。	転倒	軽症	打撲	脳神経外科	後頭部打撲、眩暈	普通	普通	その他	良好	異常を認めず	以前からの左半身	神経系疾患	機能良好	歩行不能
24	生野区	5弱	8:04	77	女	居室(住宅)	1	就寝中、地震の揺れでブラウン管テレビが落下し、頭部を負傷した。	飛来物・落下物	中等症	脳挫傷	脳神経外科	頭部打撲挫創	普通	普通	その他	良好	異常を認めず	頭頂部圧迫止血	悪性新生物	機能良好	歩行不能
25	西淀川区	5弱	8:13	20	女	居室(住宅)	15	本日8時頃、自宅居間でダンスから落ちてきた脚で頭部を負傷したものの。	飛来物・落下物	軽症	挫創	脳神経外科	頭部の痛み	普通	苦悶	その他	良好	異常を認めず		なし	機能良好	歩行可能
26	生野区	5弱	8:36	80	女	便所(住宅)	1	本日発生した地震の直後に眩暈と動悸が生じ、気分が悪くなったもの。	受傷せず	軽症	全身症状及び	内科	眩暈、気分不良、動悸	普通	不安	受傷せず	会話混乱	異常を認めず		循環器疾患	機能良好	歩行不能
27	西淀川区	5弱	9:17	74	女	居室(住宅)	6	地震発生時、ふらつきについて転倒。その際に木製の椅子に左側腹部を打撲し負傷。しばらく様子を見るも、疼痛増悪し息苦しくなってきたため救急を請じられるようになったもの。	転倒	軽症	非開放性骨折	整形外科	左側腹部の痛み	普通	苦悶	その他	良好	浅い		神経系疾患	機能良好	歩行不能
28	生野区	5弱	9:47	84	女	居室(住宅)	2	本日発生した地震直後、心窩部あたりの痛みが付けられるようになったため救急を請じたもの。	受傷せず	軽症	循環器系及び	循環器内科	心窩部痛	普通	不安	受傷せず	良好	異常を認めず		なし	機能良好	歩行不能
29	生野区	5弱	9:48	15	男	一般道路(その他)		本日8時頃、自転車にて通学中に地震が生じ、その際にパランスを崩し転倒し負傷したものの。	転倒	軽症	非開放性骨折	整形外科	左手関節の痛み	やや蒼白	不安	自転車	良好	異常を認めず		なし	機能良好	歩行可能
30	西淀川区	5弱	12:50	70	男	老人ホーム	4	本日の8時前の地震で、座っていた椅子から床に転倒し負傷したものの。	転倒	中等症	非開放性骨折	整形外科	左大腿頭部の痛み	普通	普通	その他	良好	異常を認めず		精神疾患	中等度障害	歩行不能
31	此花区	5弱	6/20 16:17	83	女	居室(住宅)	7	2日前の地震が生じた際に居室で自己転倒し負傷した。様子をみていたが痛みが強くなったため救急を請じた。	転倒	軽症	打撲	整形外科	左側胸部の痛み	普通	苦悶	その他	良好	異常を認めず		その他	機能良好	歩行不能
32	西成区	4	8:03	81	男	居室(住宅)	7	本日8時頃、地震の揺れで棚が倒れ、頭部を負傷。その際、椅子から転落し腰部も負傷したものの。	その他	軽症	打撲	整形外科	頭部・腰部の痛み	普通	普通	その他	良好	異常を認めず		消化系疾患	機能良好	歩行不能
33	西区	4	8:10	36	女	その他(公衆出入場所)	4	地震発生時、驚いて自宅マンション(6階)から隣のビル屋上(4階相当)に飛び降りたものの。	転落	中等症	非開放性骨折	整形外科	腰部の痛み	普通	不安	その他	良好	測定せず		なし	機能良好	歩行不能
34	中央区	4	8:11	23	女	一般道路(その他)		地震発生により不安感が生じ過換気になったもの。	受傷せず	軽症	循環器系及び	内科	呼吸器 全身のしびれ	普通	不安	受傷せず	良好	浅い		なし	機能良好	歩行不能

資料

No.	発症場所・区	震度	発症日時	年齢	性別	発生場所区分	発生	事故概要	受傷機転	傷病程度	傷病種別	診療科目	主訴又は主症状	顔色	表情	原因器物2	GC S・V	呼吸状態	その他の所見	既往歴	ADL	歩行状態
35	西区	4	9:03	45	女	その他の屋内	1	歩行中に地震が発生し、転倒しそうになったため壁に手をついた際に右下腿部に痛みが生じたもの。痛みが治まらず救急要請となる。	受傷せず	軽症	関節障害	整形外科	右大腿部の痛み	普通	苦悶	受傷せず	良好	異常を認めず		なし	機能良好	歩行不能
36	浪速区	4	9:11	36	女	居室(住宅)	2	地震の揺れでポットが倒れこみ、中に入っていたお湯が右膝にかかったもの。	高熱熱傷	軽症			右膝の1度熱傷	普通	普通	その他	良好	異常を認めず	右膝に1度熱傷を	なし	機能良好	歩行可能
37	住之江区	4	9:20	4	男	階段(住宅)	1	本日8時頃、息子を抱いて自宅の階段を降りていたが、地震の揺れを感じ走り込んだ。再び、階段を降りようとしたが足を踏み外し転倒、子供が負傷したもの。	転倒	軽症	擦過創	外科	左肘の痛み	普通	普通	その他	良好	異常を認めず		なし	機能良好	歩行可能
38	住之江区	4	9:20	2	女	階段(住宅)	1	本日8時頃、息子と娘を抱いて自宅の階段を降りていたが、地震の揺れを感じ走り込んだ。再び、階段を降りようとしたが足を踏み外し転倒、子供が負傷したもの。	転倒	軽症	打撲	脳神経外科	頭部の打撲	普通	普通	その他	良好	異常を認めず		なし	機能良好	歩行可能
39	住之江区	4	9:23	77	女	廊下・通路(住宅)	2	7時58分頃、発生場所を杖を突いて歩行中、地震で揺れた際に転倒し負傷したもの。	転倒	軽症	打撲	整形外科	腰部、後頭部の痛み	普通	普通	その他	良好	異常を認めず		神経系疾患	中等度障害	歩行不能
40	浪速区	4	9:36	90	女	階段(住宅)	5	本日9時30分頃、地震発生後、避難中に誤って階段で転倒した。その際、頭部を負傷し、嘔気も現れたため、近隣住民らから心配し、救急要請した。	転倒	軽症	打撲	脳神経外科	後頭部の痛み、嘔気	普通	普通	受傷せず	良好	異常を認めず		循環系疾患	機能良好	歩行不能
41	阿倍野区	4	10:09	14	女	公衆の乗降する運輸機関内		地震発生により運行停止中の電車内で、9時半頃から気分不良・頭痛・めまいが生じたため駅係員が救急要請したもの。	受傷せず	軽症	全身症状及び徴候	内科	気分不良、頭痛	やや蒼白	不安	受傷せず	良好	異常を認めず		なし	機能良好	歩行不能
42	平野区	4	10:18	94	女	居室(住宅)	7	地震の揺れで転倒し、腰部を負傷した。	転倒	中等症	打撲	整形外科	腰痛	普通	普通	その他	良好	異常を認めず		循環系疾患	機能良好	歩行不能
43	大正区	4	11:06	80	男	居室(住宅)	1	本日8時頃、ベッドで座っていた際に地震が発生し、揺れで転倒しベッドの角に腹部を打ったもの。	転倒	軽症	打撲	整形外科	腹部打撲	普通	普通	その他	良好	測定せず		悪性新生物	機能良好	歩行不能
44	中央区	4	11:13	54	男	その他(仕事場)	1	本日11時頃、浮動性眩暈と呂律困難が生じ、救急要請したもの。	受傷せず	軽症	挿管性、発性、発性	脳神経外科	浮動性眩暈、呂律困難	普通	普通	受傷せず	良好	異常を認めず		消化系疾患	機能良好	歩行不能
45	西区	4	12:15	23	女	居室(住宅)	10	本日8時頃の地震発生に伴ってパニック症状が生じ、その後、浮動性眩暈が継続しているもの。	受傷せず	軽症	循環器系及び	内科	浮動性眩暈、嘔吐	普通	苦悶	受傷せず	良好	異常を認めず		精神疾患	機能良好	歩行不能
46	城東区	4	12:33	82	男	居室(住宅)	1	本日7時58分に発生した地震の揺れにより、居室内で頭上30cm程度の高さから液晶テレビ(42インチ)が落下し前頭部を負傷し、既往の右耳の難聴症状が悪化したもの。	飛来物・落下物	軽症	打撲	脳神経外科	前頭部打撲、右耳難聴症状	普通	普通	その他の電化製品	良好	測定せず		消化系疾患	機能良好	歩行可能
47	鶴見区	4	12:42	78	男	居室(住宅)	8	本日透析日の車いす移動の患者で、マンションのエレベーターが止まっており、自力では受診困難のため救急要請したもの。	受傷せず	中等症	腎不全	泌尿器科	特になし	紅潮	普通	普通	受傷せず	良好	異常を認めず	内分泌系疾患	中等度障害	歩行不能
48	西成区	4	20:29	69	女	居室(住宅)	2	本日朝8時頃、地震の揺れで転倒し左足を負傷し動けなくなつたため要請したもの。	転倒	軽症	その他	整形外科	左足の痛み	普通	普通	その他	良好	異常を認めず			機能良好	歩行不能